

司式:増田多可子
奏楽:橋本恵美子

前奏:「いざ喜べ、愛するキリスト者たちよ」(J. パッヘルベル)

招詞:眠りにについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。(エフェ5:14)

讃美歌:7「ほめたたえよ、力強き主」

交読詩編 72:1-7

- 01 【ソロモンの詩。】神よ、あなたによる裁きを、王に/あなたによる恵みの御業を、王の子に/お授けください。
- 02 王が正しくあなたの民の訴えを取り上げ/あなたの貧しい人々を裁きますように。
- 03 山々が民に平和をもたらし/丘が恵みをもたらしますように。
- 04 王が民を、この貧しい人々を治め/乏しい人の子らを救い/虐げる者を砕きますように。
- 05 王が太陽と共に永らえ/月のある限り、代々に永らえますように。
- 06 王が牧場に降る雨となり/地を潤す豊かな雨となりますように。
- 07 生涯、神に従う者として栄え/月の失われるときまでも/豊かな平和に恵まれますように。

朗読聖書①列王記上 3:4-15

◆ソロモンの知恵(続)

- 04 王はいけにえをささげるためにギブオンへ行った。そこに重要な聖なる高台があったからである。ソロモンはその祭壇に一千頭もの焼き尽くす献げ物をささげた。
- 05 その夜、主はギブオンでソロモンの夢枕に立ち、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう」と言われた。
- 06 ソロモンは答えた。「あなたの僕、わたしの父ダビデは忠実に、憐れみ深く正しい心をもって御前を歩んだので、あなたは父に豊かな慈しみをお示しになりました。またあなたはその豊かな慈しみを絶やすことなくお示しになって、今日、その王座につく子を父に与えられました。
- 07 わが神、主よ、あなたは父ダビデに代わる王として、この僕をお立てになりました。しかし、わたしは取るに足らない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません。
- 08 僕はあなたのお選びになった民の中にいますが、その民は多く、数えることも調べることもできないほどです。
- 09 どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。そうでなければ、この数多いあなたの民を裁くことが、誰にできませんしょう。」
- 10 主はソロモンのこの願いをお喜びになった。
- 11 神はこう言われた。「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。
- 12 見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者がいない。
- 13 わたしはまた、あなたの求めなかったもの、富と栄光も与える。生涯にわたってあなたと肩を並べうる王は一人もいない。
- 14 もしあなたが父ダビデの歩んだように、わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら、あなたに長寿をも恵もう。」
- 15 ソロモンは目を覚まして、それが夢だと知った。ソロモンはエルサレムに帰り、主の契約の箱の前に立って、焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげ、家臣のすべてを招いて宴を張った。

朗読聖書②マタイによる福音書 7:1-6

◆人を裁くな

- 01 「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。
- 02 あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量の秤で量り与えられる。
- 03 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。
- 04 兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。
- 05 偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。
- 06 神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにしり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」

祈祷

天地万物を創造し永遠に私達を導き守ってくださる主イエス・キリストの父なる神様、聖名を崇め賛美します。復活節第5主日の朝、一人ひとりの名を呼んで、主キリストのからだである教会へと呼び集められ、またライブ配信を通して敬愛する兄弟姉妹と共に礼拝へと招いてくださり、共に御言葉を聞く恵みに感謝致します。先の一週間を顧みて、神様は人知を遥かに超えたあなたのご計画の中を歩む私達を養い、導き、慰めの中であって、豊かに祝福してくださいました。神様、あなたの示してくださいました愛は、私達には測り知ることができません。神様のこの一週間のお導きに感謝致します。

神様の御言葉に聞き従おうとせず、祈ることの少なかった私達を、どうぞお赦してください。私達の歩みはあなたの御心に適ったものではなく、自分の私利私欲の事ばかり考え、隣人のことを無視し、傷つけてばかりで、愛の業に乏しいものでした。日頃から祈ることが少なく、自分の事ばかりに集中し、神様の御旨に聞き従うことのできない私達ですが、その中であって主イエスが真中にいてくださり、主イエスの贖いによって生かされていることに感謝致します。私達は日々神様の赦しの中に置かれていることに気づき、あなたの思いを遥かに超えたところに、神様の導きと支えが豊かにある事にどうぞ気づかせてください。

欠けの多い私達であっても、あなたは私達を見捨てることなく礼拝に招いてくださり、悔い改めの機会をくださいました。そして御言葉を聞き、祈り、共に賛美することを赦してくださいました。どうか一人ひとりの信仰を導き、信仰によって神のみに従う者としてください。そして、あなたの恵みに溢れた光の中を歩ませてください。

先の一週間を振り返りますと、世界は為政者の一言によって振り回されており、とりわけ、国を追われ、非人道的な環境に追いやられている方々の上に、あなたの救いが豊かにありますように。

人類によって恵み豊かな自然が破壊され、人知では取り戻すことが出来ない異常な気候変動が生じ、それによる天災、更には環境汚染が引き起こす有害物質等による健康被害が生じています。日本では、自己中心的な思想によって秩序を乱し、それによって事故に巻き込まれ、一瞬にして愛する家族の命が奪われ、悲しみの中にいる家族が多くいます。お一人お一人の上に慰めがありますように。

この礼拝を覚えつつも、この場に集うことのできない兄弟姉妹のために祈ります。全ての人と愛の連帯性をもって、教会の命である主日礼拝が最

もよいものの時となりますように祈ります。

私達一人ひとりがこの世へと派遣されている自覚をより一層強めてください。そして、主日礼拝で御言葉の説き明かしを頂いているこの喜びを、まだ教会に来たことのない方々に伝える勇気をどうぞ与えてください。

教会創立百周年の記念事業の完成を目指して、皆が参加できるようにと祈ります。百周年の記念事業の為に多くの時間を使い、会議を重ね、企画を進めてくださっている方々に感謝致します。先人達がこの地で守り築き上げてきた信仰の継承に感謝し、教会員が丸丸となって百周年の事業に取り組む完成と向かい、この世へと派遣されていく者とならせてください。

今、世界各地で献げられている礼拝が、賛美と感謝に満ちたものとなりますように。

御言葉を取り次ぐ佃先生の説教が、聖霊の力を豊かに受けて、力強く語られますように。また聞く私達一人ひとりの心を清め、素直に受け止めることができますように。

頂いた御言葉を心の糧として、今日から始まりますこの一週間、あなたの豊かな恵みの中を歩ませてください。

これらの祈りを尊き主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讚美歌:355「主をほめよ わが心」

説教 「裁いてはならない」

佃 雅之

キリストは今朝の私達に、「人を裁くな。」「裁いてはならない」と言われます。3節以下に、「兄弟」と何度も記されていますから、ここで、裁きの対象となっているのは、主にある兄弟姉妹のことです。私達の教会の中で、「人を裁くな、兄弟姉妹を裁いてはならない」というキリストの教えは破られてはいないでしょうか。

「裁いてはならない」理由として。「あなたがたも裁かれないようにするためである」と言われています。「裁く」と訳されている言葉は、元のギリシャ語(κρίνω)では「切り離す=to separate」という意味を持っています。「あなたは正しい。あなたは間違っている。私は正しいけれどもあなたは間違っている。私とあなたは違う」と言って、「区別して相手を切り離す」ことが「裁く」ということです。

「人を裁くな」というキリストの言葉に背いたなら、私達と神との間にも断絶が生じるということでしょう。また、「裁く」という言葉は「判断する=judge」という意味もあります。神学者カール・バルトは、「判断すること、相手に対する一つの攻撃だ」と言っています。人の判断は、相手を傷つけ、痛めつけることになるからです。「本当に正しい判断というもの、人間の中にはない。」と言うのです。

キリストは言葉を続けられます。「あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。」私達が兄弟姉妹を裁くとき、そこには基準があるのです。私達は一人ひとり自分の秤を持っています。その秤は「自分勝手な秤だ」と言っていていいでしょう。私達は、自分の秤で人を量ろうとします。「自分勝手な秤で人を量って、勝手にこの人は悪いと決めつける。」しかし、それは同時に、「あなた自身が神の裁きを招いていることになる」と言うのです。

そもそも、なぜ、私達は人を裁くのでしょうか。多くの場合私達は、自分の信じる価値観や正義のため、また同時に自分の不安や欲、恐れから人を裁こうとします。キリストは「兄弟を裁くあなたの目には丸太があるではないが」

と言われます。「丸太」は私達の中にある『罪』を表しています。「人を裁くあなたは自分の目の中にある丸太に気づかずに、兄弟に対して「あなたの目からおかしくをとらせてください」と言っている」、つまり、相手に対して優越感を抱き、自分を一段高いところに置いて裁き主になっていくわけです。「人を裁く時、あなたは自分を見失っている。人を裁く前に、まず、自分の姿を神の前に振り返ってみなさい。」と言うことでしょう。

私達は他人には厳しい目を持っているにもかかわらず、自分を見る目は偏っていて不公平、ひどい時は盲目にさえなっている。人の過ちは、尾ひれを付けて大袈裟に語るのに、自分の過ちは見落とし、軽く見たりしてしまう。私達は常に自分には甘いのです。そのような、私達が、「もし人を軽率に罪人とするなら、その軽率さがあなたを罪人にしてしまう」、「人を裁くあなたは自分が神によって裁かれる者であることを忘れてる」と言うことです。

自分が人を裁くことについて慎重に考え、神に祈り、知恵を求めたのがイスラエルの三代目の王となったソロモンです。ダビデ王の後継者となった彼は、イスラエルの歴史の中で最も繁栄した時代の王となりました。ソロモンが即位したのは、まだ十代であったとも言われています。

わが神、主よ、あなたは父ダビデに代わる王として、この僕をお立てになりました。しかし、わたしは取るに足らない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません。(1王3:7)

ソロモンは若さ故の未熟さを自覚していました。「王としてどのように振舞うべきかわからない」、ソロモンの本音でしょう。イスラエルの民を治めるのに、自分にはその力も知恵もないことをはっきりと認めています。それでもソロモンは、神によって、王として立てられたのでありますから、嘆きながらもイスラエルの民を守る責任を果たさなければなりません。

この箇所では、夜、主がソロモンの夢枕に立ったことが伝えられています。5節「何事も願うがよい。あなたに与えよう。」主の言葉に対してソロモンは自らの未熟さと無力さを率直に告白しました。この告白は、自分が神によって立てられているという強い自覚を示しています。神様から「何事も願うがよい。あなたに与えよう」と言われたら私達なら何を願うでしょう。ソロモンの願いが9節に書かれています。

どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。そうでなければ、この数多いあなたの民を裁くことが、誰にできましよう。

ソロモンは、自分の命のことも、富も求めませんでした。「民を正しく裁き、善と悪を判断することができる」神と同じ心を与えてくださいと願ったのです。民の数は多いですから、ソロモンが直接すべてのために関わることは不可能なことです。あらゆる方向に、無限に広がる問題に、正しく対応することは一人でできることではないのです。多くの問題に直面する時、解決への糸口は人間の使命感や経験で見つけることはできません。神から、聞き分ける心、知恵に満ちた賢明な心を与えていただかなければ判断を誤ってしまうのです。決断しなければならぬ時に決断することができない、民の間を裁かなければならぬ時、裁きを間違ってしまう。もし、大切な判断や決断を間違ってしまったら王として失格です。自分のことだけでなく、イスラエルの民は混乱に陥るでしょう。そして、国は滅びることになるのです。

主はソロモンの願いに応じて知恵に満ちた賢明な心を与えてくださいました。私達の内に正しさはありません。正しく判断し決断する知恵は神が

与えて下さるものです。私達は国を治める王ではありませんが、一人ひとりが教会をキリストの体として形づくる大切な役割を担っています。“民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください”というソロモンの願いは、私達の願いでもなければなりません。ソロモンの願いは、“自分を通して主の御心が行われるように”ということです。自分の心が主によって支配されることを、主との関係における正しさを求めたのです。神がソロモンに与えられた人を正しく裁き、善と悪を判断することができるための聞き分ける心はやがて『ソロモンの知恵』と呼ばれ、聖書に書き記されるほどの知恵となりました。

私達一人ひとりに、日常の生活の中で、教会との関わりの中で様々な責任があります。必要な時には、正しい判断と決断をするために聞き分ける心、見分ける目を持たなければなりません。その時、私達の判断の基準になるのはキリストの言葉です。「人を裁くな」ということは、「人を愛する、人を赦す」という意味で使われているとも言われます。キリストが弟子たちに、私達に示して下さったことは、“敵さえも愛すること”でした。

愛すること、赦すことは、人と人とを結びつける行為です。しかし裁くことは人と人とを、神と私達とを切り離す行為なのです。人が正義をかざして発言するとき、正義への情熱を燃やして神の代理人にでもなったかのように思うとき、そのあなたの正義は混乱と争いの元になり、悲劇の原因となっていくことは明らかです。

あなたの目には「丸太」があります。兄弟の目には「おが屑」があります。大ききの違いはありますが、結局、どちらも、はっきりと見えていない状態に違いはありません。私の中にも同じ罪が隠れている、私自身もあなたと同じ弱さを持っている、どちらも欠けの多い、誘惑に弱い同じ人間なのです。「裁き」と聞くと強い人間がすることのように思えるかも知れません。確かに強い人間は自分の正しさや使命感で人を裁きます。しかし、弱い人間も、妬みや憐れみ人を裁くことがあるものです。そして、裁き合い始めたとき教会は崩れてしまいます。

キリストは5節で、「まず自分の目から丸太を取り除け」と言われます。『山上の説教』でキリストが「まず(プロトス/πρῶτος)」と言われるのは、これが3回目です。「まず行って、その兄弟と和解し(5:24)」、「まず、神の国と神の義を求めなさい(6:33)」、この「まず」が、とても大切なのです。まず第一にすべきことがある、私達が、まずするべき事は人を裁くことではなく自分の目にある丸太を取り除く努力です。教会を形作る、私達一人ひとりが自分の目にある丸太を取り除く努力をいつも忘れないようにしていなければ滅びという悲劇が教会に押し迫ってきます。自分の罪に気づいて、それでも裁かず赦して下さる神を見上げることです。

教会の中には、「羊の皮を身にまとった狼が入り込んでいる(7:15)」、あるいは、「神の畑にも良い麦だけでなく毒麦が突ることがある(13:26)」ことをキリストは教えてくださっています。教会の外だけでなく、教会の中にも様々なものが入り混じっているのです。罪を犯す者と罪を赦さない者、どちらが羊でどちらが狼なのでしょう。どちらが良い麦でどちらが毒麦なのでしょう。見分ける心が、見分ける目が必要です。何が善で何が悪か、良い事と悪いことを区別することができるなければなりません。何を為すべきか何を為さぬべきかを決断する知恵が必要です。“ソロモンのように善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください”と、私達は常に祈らなければなりません。

丸太のように大きく重い罪を自分の力だけで取り除くことはできません。キリストの福音によらなければ丸太は取り除くことができないのです。私達に望まれている言葉、憎しみや怒りの心を持つのではなく、哀れみの心を持つことであります。その人の弱さを自分の弱さとして寄り添ってくださったのがキリストです。今日、この礼拝に集められた私達は、自分の目の中にある丸太に気付くことを求められています。そうすれば、神の知恵に満ちた懸命な心が与えられ、はっきり見えるようになるでしょう。

今日の個所の最後に「犬」と「豚」という言葉が使われています。「神聖なものを犬に与えてはならず、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう」とキリスト語られています。“聖なるものを与える”“真珠を投げる”ということは、神の言葉を、福音を知らせることです。ここでの「犬」と「豚」は、福音を聞いても受け入れない人たちのことでしょう。そのような者達に「聖なるもの」、「真珠」を与えても、“踏みにじられ、噛みつかれることさえある”というのです。

私達には教会の外にも中にもいる福音を受け入れる者と受け入れない者と見分ける目を持つことが求められています。見分けるためには「おが屑」も「丸太」もない、はっきり見える澄んだ目が必要です。あなたの目が澄んでいるなら、そのあなたの目にはキリストがはっきりと映ります。教会は人を裁くところでも裁き合うところでもありません。罪人であり私達を赦して下さったキリストに倣って、私達が罪人を赦すことが求められている所です。

「人を裁くな」、この言葉は単なる禁止や警告ではなく、解放の言葉であります。私の弟子となって真の裁き主が誰であるかを知ったあなたたちは、“もう自分で裁かなくていい”という私達を解放する言葉であります。

神の秤は、憐れみ深く、情け深く、慈愛に満ちています。神の秤は、救いと赦しのための秤です。私達が自分たちの正しさで人を裁くなら、神の秤ではなく、自分の正しさ、自分勝手な偏った秤で神の裁きを受けることになります。自分がしたことと同じ目に遭うことになる、つまり、はっきり言えば、人を裁くあなたは、神によって酷い裁きを受けることになるのです。人の目には誤魔化せても神の目を偽ることはできません。

キリストの裁きとはどのようなものであったでしょう。キリストの裁きは、人々を悔い改めと導きました。私達にそれを成し得ることは決してできません。裁きを行うことができるのはキリストのみであります。教会は人間ではなくキリストがご支配されているところです。私達は御言葉に従い、互いに裁き合う者ではなく、赦し合う者となって歩んでいきたいと切に思います。

お祈り致します。

聖なる神、御子イエス・キリストの福音が裁かれるべき私達を赦し悔い改めに導いて下さる恵みを感謝致します。主よ、どうか、私達が互いに赦し合い、兄弟姉妹の交わりに生きることが出来ますように。キリストのからだである教会に連なる私達が夫々の賜物を活かしあって支え合うことが出来ますように。どうかキリストの福音を一層励んで伝えることのできる教会として成長させてください。そのために、まず、私達の目にある丸太をあなたの御手で取り除けてください。主の聖名よって祈ります。アーメン。

讃美歌:430「とびらの外に」

献金・感謝(横山知枝)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

父なる神様、主にある兄弟姉妹と共に、またライブ配信を通して礼拝を献げることが赦されましたことを感謝致します。

佃先生の説教を通して、豊かに御言葉を与えてくださりましてありがとうございます。感謝致します。私達がこの一週間を夫々の旅路の中で御言葉を糧として歩むことができますようにお導きください。

私達は必要な物を与えられ、主の僕として生きることが赦されていることを感謝致します。今、それぞれが与えられたものの中から感謝と献身のしるしを御前に献げます。どうぞ祝して、教会の御用のために用いてください。

主が、教えてくださった主の祈りを共に祈り、新しい日々を迎えさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌 92「主よ、わたしたちの主よ」

祝福:主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:特記事項無し

後奏:「主はわが良き牧者」(J,パッヘルベル)